

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391300031		
法人名	株式会社アキズファイブ		
事業所名	グループホーム憩		
所在地	愛知県名古屋守山区小幡中三丁目4番2号		
自己評価作成日	令和4年1月10日	評価結果市町村受理日	令和4年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391300031-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が1日楽しく過ごし安全を考えて何事もないように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内は、基本理念でもある「だんらん」のあるアットホームな生活環境をつくりながら、利用者が毎日の生活をのんびりと過ごすことができるような支援が行われている。リビングには、利用者全員の方が座ることができるソファの配置が行われていることで、日常生活の中で「だんらん」のある生活にもつながっている。感染症問題が続いていることもあり、外部の方との交流が困難になっているが、ホーム内の飾りを制作するボランティアの方との交流を継続しており、ホーム内にボランティアの方の作品が飾られてあり、アットホームな雰囲気づくりにもつながっている。日常生活に関する支援については、1ユニットのホームである利点も活かしながら、日常的に職員間で情報交換を行い、職員からの意見をホームの運営に反映したり、利用者一人ひとりに合わせた支援につなげる取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	利用者様が楽しく安全に気をつけて実践につなげている。	基本理念でもある「安心、やさしさ、だんらん」を職員の支援の基本としながら、職員間で理念の合わせた支援が行われている。日常的にアットホームな支援が行われており、理念の実践にもつながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの為交流はしていない。	ホームは自治会に入り、地域の方との交流が行われている他、ホーム建物のオーナーが当ホームの隣の場所に住んでいることで、オーナーを通じた交流も行われている。また、ボランティアの方が来訪しており、ボランティアの方を通じた交流も行われている。	感染症問題が続いていることもあり、地域の方との交流が困難になっていることもあるため、今後の交流の再開にも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	利用者様のことを考えて、1日楽しく過ごせる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	1ヶ月に1回スタッフと話し合いを行い取り組んでいる。	会議については、感染症問題があるため、オーナーの方等、人数を限定する形で継続している。会議の際には、ホームの行事を見てもらう機会をつくり、ホームの取り組みを知ってもらう働きかけが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	利用者様のケアサービスを積極的に取り組んでいる。	ホームで生活保護の方の受け入れが行われており、市担当部署との情報交換等が行われている。また、例年については、区の福祉まつりにホームからも参加しており、交流の取り組みが行われている。	毎年度の恒例でもあった区民祭りでの披露の機会が中断していることもあるため、区民祭りが再開された際には、ホームからの参加に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	取り組んでいる。利用者様に対応して理解をしている。	身体拘束を行わない支援が行われており、職員間で利用者に関する検討を行いながら、利用者に関わった支援に取り組んでいる。また、身体拘束に関する検討を行う取り組みや職員で勉強会を行う機会をつくり、振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	利用者様の1日の行動を把握して注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	関係者と話し合い支援を出来るようにしたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者様や家族に十分な説明を行い理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の家族の意見を聞いて、それらを運営に反映させている。	現状、家族との交流が困難になっているが、例年は、敬老会等の行事を通じた家族との交流が行われている。家族からの要望等については、管理者により行われている。また、毎月の管理者による利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1ヶ月に1回スタッフと利用者様のことを話し合いをしている。	毎月の職員会議の他にも、1ユニットの職員体制である利点を活かしながら、日常的に職員間で情報交換が行われており、職員の意見を日常の支援につなげている。また、職からの意見等を管理者から法人代表者に報告しながら、ホームの運営につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	労働時間、やりがいのある職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員のケアのことを思い進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	スタッフに対してコミュニケーションを取って取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者様が悩んでいる時、本人が安心を確保するため、耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	困っていることなど、耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様が楽しく過ごせるように歌やカレンダー作りを行い、コミュニケーションを努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様のことを思い、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族に利用者様のことを手紙を書いて関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者様の何を思っているのか把握して関係が途切れないように努めている。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には電話等を通じて交流を継続している方もあり、関係継続にもつながっている。また、家族との外出も行われており、感染症対策を行いながら、利用者と食事や外泊等に出かけている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士が言い争いした時、仲裁に入り、利用者様が楽しく過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者様の相談などに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様一人ひとりの長所短所を把握して努めている。	ホームでは、日常的に職員間で情報交換を行いながら、利用者に関する意向等の把握が行われている。また、毎月の職員会議を通じたカンファレンスが行われており、利用者に関する意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者様の楽しく過ごせる環境を把握しながら努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	レク歌やカレンダー作りなどコミュニケーションに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	一人ひとりの介護計画に作成している。	介護計画については、基本6か月での見直しが行われており、状態変化等に合わせた対応が行われている。モニタリングについては、日常の記録を細かく残しながら変化等を把握し、毎月の職員間でのチェックを通じて6か月での評価が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様日々の様子を記録に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	支援やサービスを取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者様が楽しく暮らせるよう日頃努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	サンクリニック2週間に1回訪問受診。	ホームでは、協力医との定期的及び随時の医療面での支援が行われており、現状、全員の利用者が協力医をかかりつけ医としている。また、受診については、家族による対応の他にも、状況に合わせたホーム職員による受診支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者様に何かあればサンクリニックに連絡して指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の情報交換を行い、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族に連絡して取り組んでいる。	身体状態の重い方についても、ホームで支援可能な取り組みが行われているが、利用者の看取り支援については対応していないことを家族にも説明が行われている。利用者の状況等に合わせた医療機関等への移行支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	スタッフ全員利用者様に急変や事故発生した場合、対応を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	スタッフ全員利用者様を避難できるように心掛けている。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等が行われている。ホーム隣にオーナーが生活しており、非常災害に関する情報交換等にもつながっている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品が確保されている。	ホームの建物の構造上、利用者の避難誘導に困難が予想される。ホームには夜勤中心の職員も勤務していることもあり、職員間で災害対策に関する継続した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様一人ひとりのことを思いやさいい言葉かけを行っている。	職員による利用者への言葉遣い等については、利用者の人格を傷つけないように行うことを管理者からも注意喚起等の機会がつけられている。また、利用者のおしゃれの支援も行われており、利用者を尊重した対応につながる取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様一人ひとり思いや希望を考えて働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様を優先して楽しく過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月1回フラワーで髪を切るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の時、利用者様の行動を注意して楽しく食事出来るよう心掛けている。	ホームでは、食材業者のメニューを基本に調理が行われているが、利用者の好み等に合わせたアレンジ等の対応も行われている。利用者も配膳や片付け等のできることに参加している。また、季節等に合わせた食事作りやおやつ作り等の取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	タイヘイでおかずを取っている。栄養面では、気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	1日食事後3回歯みがきをスタッフがチェックを行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	りようをトイレ誘導を行い、自立にむけた支援を行っている。	利用者一人ひとりの身体状態等に合わせながら、職員間で情報交換を行い、利用者に合わせて排泄支援に取り組んでいる。トイレでの排泄を基本に支援が行われているが、利用者の中にはおむつ使用の方もあり、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	利用者様のことを理解し予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	火金、全員入浴12:30～14:00。火、体重測定を行い、利用者様の健康管理を行う。	ホームでは、火曜日と金曜日の午後の時間に全員の方が入浴している。入浴を拒む方も声かけ等を考えながら、定期的な入浴につなげている。また、利用者の身体状態に合わせた職員2名での支援や季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の入浴が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様のことを思い、安心して生活出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様が服薬する時、スタッフが注意して努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	スタッフが利用者様が楽しく過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族様から電話があり、外出することがある。コロナが終わったら、利用者様散歩をする計画がある。	現状の感染症問題が続いていることもあり、利用者の外出が困難になっているが、ホーム周辺を散歩する機会をつくる等、現状で可能な支援が行われている。また、感染症の状況もみながら、近くの公園へ花見等を通じた外出支援も行われている。	区民祭りが中止になる等、利用者の外出の機会が減っている状況でもあるため、今後の状況をみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者様は理解はしていない為、支援していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様のことに対して家族に手紙を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様が楽しく過ごせるようスタッフ全員工夫をしている。	リビングの窓が大きくつくられていることで採光に優れており、利用者は日中を明るい雰囲気ですごしている。全員の方が座ることができるソファの配置やリビングの壁には、ボランティアの方による作品が掲示されており、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	スタッフ全員が過ごせるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	利用者の中には、馴染みのある家具類や身の回りの物等を持ち込む等、利用者や家族の意向等にも合わせた居室づくりが行われている。また、ホームで家具類を用意していることもあり、持ち込みの少ない方もホームでの生活を継続することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	歌やカレンダー作りなど、利用者様が1日楽しく過ごすことに心掛けている。		